

(様式2)

校種	①・中	学校番号	43	学校名	宇都宮市立篠井小学校
----	-----	------	----	-----	------------

令和7年度 学習指導に関する取組

1 本年度の学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

① 国語

- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、市の正答率を上回る学年があり、漢字を読む力は身に付いてきている。しかし、書く力については課題が見られた。
- ・「情報の扱い方に関する事項」については、学年によってばらつきがあった。市の正答率を下回る学年では、情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理することに課題が見られた。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」については、市の正答率を下回る学年が多く、和語や漢語、外来語などの理解が不十分であった。
- ・「話すこと・聞くこと」については、市の正答率を上回る学年があり、話す力、聞く力が身に付いてきている。しかし、インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉えることに課題が見られた。
- ・「書くこと」については、どの学年も市の正答率を下回った。与えられた条件に沿って文章を書くことに苦手意識が見られた。
- ・「読むこと」についても、どの学年も市の正答率を下回った。特に物語文で、心に残ったところとその理由をまとめて書くことに課題が見られ、無回答率も高かった。

② 算数

- ・「数と計算」については、市の正答率を下回る学年が多かった。基礎的な四則計算について、理解と定着が図れていない。
- ・「図形」については、市の正答率を下回る学年が多かった。図形の定義についての理解が不十分で、円の性質を利用して、正三角形を作図することに課題が見られた。
- ・「測定」については、市の正答率を下回った。はかりの目盛りを読み取ることに課題が見られた。
- ・「変化と関係」については、学年によってばらつきがあった。市の正答率を下回る学年では、割合を使った比べ方について説明する問題に課題が見られた。
- ・「データの活用」については、市の正答率を下回る学年が多かった。グラフや表を正しく読み取ったり、読み取ったことを説明したりすることに課題が見られた。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好きですか。」の設問の肯定回答率は33.3%から92.9%であった。1年生は92.9%で、勉強への興味や関心が高い児童が多いことがわかる。
- ・「学校の授業がどの程度分かりますか。」の設問の肯定回答率は66.7%から90.5%であった。学年が上がるにつれて、下がる傾向が見られた。
- ・「自分から進んで勉強していますか。」の設問の肯定回答率は55.6%から92.9%であった。1年生は92.9%であり、意欲的に学習に取り組もうとしていることがわかる。
- ・「グループなどで話合いに自分から進んで参加している。」の肯定回答率は55.6%から92.9%であった。低学年ほど割合が高く、進んで話合いに参加できていることがわかる。
- ・「学習をしてわかるようになったり、できるようになったりすることがうれしい。」の設問の肯定回答率は、ほとんどの学年で100%と高く、学習に対して前向きに取り組んでいることがわかる。
- ・「家庭学習時間」については、高学年で長時間取り組んでいる傾向が見られ、ほとんどしない児童が0%である学年が多かった。家庭学習が習慣化され、自主学習へ積極的に取り組んでいることがわかる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・朝の学習や算数の授業では、TTや少人数で指導に当たることにより、個別指導を重視し、学力差に対応してきた。しかし、漢字や計算など基礎的な部分で定着が不十分な児童が見られる。
- ・「宇都宮モデル」をもとに毎時間の授業を進め、学習の目的や課題のゴールを明確にすることで、見通しをもって主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。
- ・授業の中で、話合い活動やグループ活動の場を設けることで、自分の思いや考えを進んで相手に伝えようとする児童が増えてきたが、相手の話をきちんと理解し、そこから視野を広げて考えたり、新たな疑問や課題を見つけたりすることは難しかった。

2 今年度の重点目標

◎宇都宮モデルの実践「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり

- ・基礎学力の向上
- ・「書くこと」の指導の充実
- ・1人1台端末等のデジタル機器の効果的な活用

今年度の研究主題

主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成
～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関わる取組は文頭に★、「令和7年度指導の重点」は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）学習指導の充実と支援の工夫

- 主体的・対話的で深い学びのある授業実践
- ★□○「宇都宮モデル」（はっきり！じっくり！すっきり！）を活用した授業改善の推進
- ねらいの明確な提示と流れが分かりやすい授業展開
（ねらい→めあて→問題提示→自力解決→学び合い→まとめ→振り返りの学習パターンによる授業の流れが分かりやすい指導）
- 各教科においての学び合いの学習の活性化（本時の目標に迫る展開の工夫）
- 学習成果を次の学びへとつなげるための振り返りの工夫
- 相手意識や目的意識を明確にした、書く活動の推進
- ★ 「篠井小学習ナビ」を活用した学習態度の育成と学びに向かう学習集団作り
- ★ 学校図書館の「学習センター・情報センター」としての機能の充実
- 「生活科・総合的な学習の時間の要請訪問」「クロームブックの活用」などの校内研修の充実
- TTによる朝の学習タイム（毎週火・木）で復習プリントやAIドリル等を利用し、計画的に復習させることによる言語や計算技能の基礎基本の定着
- ・ 少人数指導、習熟度別学習など様々な学習形態を取り入れた、個に応じた指導やきめ細かな指導による「分かる授業」の展開
- ★ 家庭学習の定着化を図る取組の工夫（家庭学習がんばりカードの活用）
- ・ 全教科・各領域における言語活動を重視した指導の充実
- お互いの意見をよく聴き合える学級集団作り
- 学びの姿を的確に捉えた、学びを深めるための発問の工夫
- 特別支援教育の視点を取り入れた、「よさを伸ばす指導」の充実

（2）家庭・各種団体・地域との連携協力

- ★ 体験活動（みどり活動）と交流活動の充実（地域高齢者・保育園・障がい者施設等）
- ★ 学習支援（昔のくらし・遊び等の体験指導、読み聞かせにおける地域人材の活用）の充実
- ★ 学校だよりや学年だより、HP等、各種たよりの定期的な発行による保護者への啓発
- ★ 情報交換の場としてのフリー参観や授業参観の開催、懇談会や個人懇談の実施（4,6,9,12,2月）
- ・ 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査、学習及び生活に関するアンケート結果の公表（予定）